

①

「コンタのあついひ」

脚本・絵 湯本春美

夏のあついひのことです。

「コンタ、お野菜も食べなさい」

「ぼく、お野菜だいきらい。

キュウリはかったいし、

ピーマンはくっさいし、

トマトなんか赤いくせに、すっぱいんだぞ。」

コンタは、お母さんの声を振り切って、

家からかけだしました。

②

コンタがはしっている

道の真ん中に大きなリュックがありました。

「うあー でっかいリュック

せおってみよう。」

コンタは、リュックをせおいました。

ところが

リュックは

③

コンタをつかまえ

せおって歩き始めました。

「たすけてー」

リュックは何も言わず

ドンドン歩いて行きます。

リュックが歩いていると

④

野菜畑に通りがかりました

「大嫌いなお野菜が、いっぱいだ」
コンタはおもわずつぶやきました。

「いいこときいたぞ！」

リュックは立ち止まりました。

「お野菜、お野菜、飛んでこい。」
そう、さけぶと、ファスナーを
「がばー」と開きました。

すると、

「ピヨーン ピヨーン」

⑤

お野菜が、あっちからもこっちからも飛んできて、

リュックの中に入ってきてきます。

みるみるリュックの中は、お野菜でいっぱいになりました。

「これだけあれば、十分だ。

重さで動けないだろう。

どれ、ひと眠りするか。」

リュックはドシンと座り込むと

『グー グー』

大きないびきをかいて眠り始めました。

⑥

コンタは、リュックが重くて動けません。

「どうしよう。」

コンタは考えました。

「そうだ、リュックの中のお野菜を
放り出せば、動けるぞ。」

そこで、コンタは

⑦

お野菜を、リュックの中からつかみだし、
ほうりなげました。

「お野菜、お野菜、飛んでいけ。」

ところが

お野菜は、

⑧

なかまを連れて、リュックの中に
帰ってきました。

リュックはますます重くなりました。

「ウー……重い」

コンタはのびてしまいました。

⑨

夏の日には『じりじり』照りつけます。

「のどがかわいたよー」

コンタはグルリを見回しました。

けれども、水はありません。

あるのは、お野菜ばかりです。

「ぼく、お野菜大嫌い。」

夏の日には『カンカン』てりつけます。

「仕方がない。」

コンタは決心しました。

コンタは眼の前のキュウリをぐつつかみ取りました。

「がり、」

目をつぶって思いっきりかぶりつきました。

「あれ、なかなかいけるぞ。」

「今度は、トマトだ。」

うーん、あまーい。」

コンタは手当たり次第に野菜を食べました。

「トマトはおしりに☆のマークがあるほうがうまいぞ。」

キュウリも一本ずつ味が違う。ふしぎだな。」

コンタはリュックの中のお野菜まですべて食べてしまいました。

「おなかいっぱいだ。」

「ドスン・・・」

お空を向いて、寝転びました。

そして、眼を閉じると

『グースー』

気持ちよく眠ってしまいました。

下敷きになったリュックは

ペツタンコ

「ギュー」

目をさましたリュックはびっくり

「なんて重いんだ。」

ふりかえって、またびっくり

「お野菜が消えてる。うあー

こいつに、押しつぶされたんだ。

ぼやぼやしてたら、おれも、こいつに

おしつぶされるぞ」

リュックはあわてて、にげだしました。

「たすけてくれー」

一番星がひかりました。

「コンター……」

お母さんがコンタをむかえにきてくれました。

コンタはお母さんに背負われて
お家に帰りました。

おしまい